

グローリー株式会社		GLORY
2012年3月期 決算説明資料		
1 連結業績の概要 1) 連結業績概要 …P. 3 2) 売上高の変動要因 …P. 4 3) 営業利益の変動要因 …P. 5		
2 連結業績の詳細 1) セグメント別売上高・営業利益 …P. 7 2) 四半期毎のセグメント別売上高 …P. 14 3) セグメント別売上高・営業利益(計画比) …P. 15 4) 設備投資他 …P. 16 5) 損益計算書・包括利益計算書 …P. 17		
3 2012年度 セグメント別事業計画 1) 海外市場 …P. 19 2) 金融市場 …P. 20 3) 流通・交通市場 …P. 21 4) 遊技市場 …P. 22 5) その他 …P. 23		
4 2013年3月期 業績予想 1) 2013年3月期 業績予想 …P. 25 2) セグメント別売上高・営業利益 …P. 26 3) 半期毎のセグメント別売上高・営業利益 …P. 27		
5 その他の情報 1) 配当予想について …P. 29		
		
当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。 従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみに依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。 また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。		

「2012年3月期 決算説明資料」

2012年3月期 **1** 連結業績の概要

- 1) 連結業績概要 前期比 ……P. 3
- 2) 売上高の変動要因 ……P. 4
- 3) 営業利益の変動要因 ……P. 5

「2012年3月期 連結業績の概要」について

1

連結業績の概要

連結業績概要 前期比

GLORY

売上高

金融市場は低調であったものの、海外市場、流通・交通市場が好調に推移したことにより、前期に比べ増加。

利益

売上高の増加に加え、開発効率や生産性の向上、海外生産・海外調達等のコストダウン施策を推進した結果、前期に比べ増加。

(百万円)	2011年3月期 (平成23年3月期)	2012年3月期 (平成24年3月期)	前期比
売上高	138,964	146,937	+5.7%
うち 保守売上高	32,092 (23.1%)	33,944 (23.1%)	+5.8%
営業利益	10,323 (7.4%)	11,274 (7.7%)	+9.2%
経常利益	11,028 (7.9%)	11,908 (8.1%)	+8.0%
当期純利益	6,229 (4.5%)	6,246 (4.3%)	+0.3%

※為替レート [ドル]85円 [ユーロ]110円

3

「連結業績の概要 前期比」について

〔売上高〕

前期に比べ5.7%増加。

金融市場を除く4つのセグメントが堅調に推移。

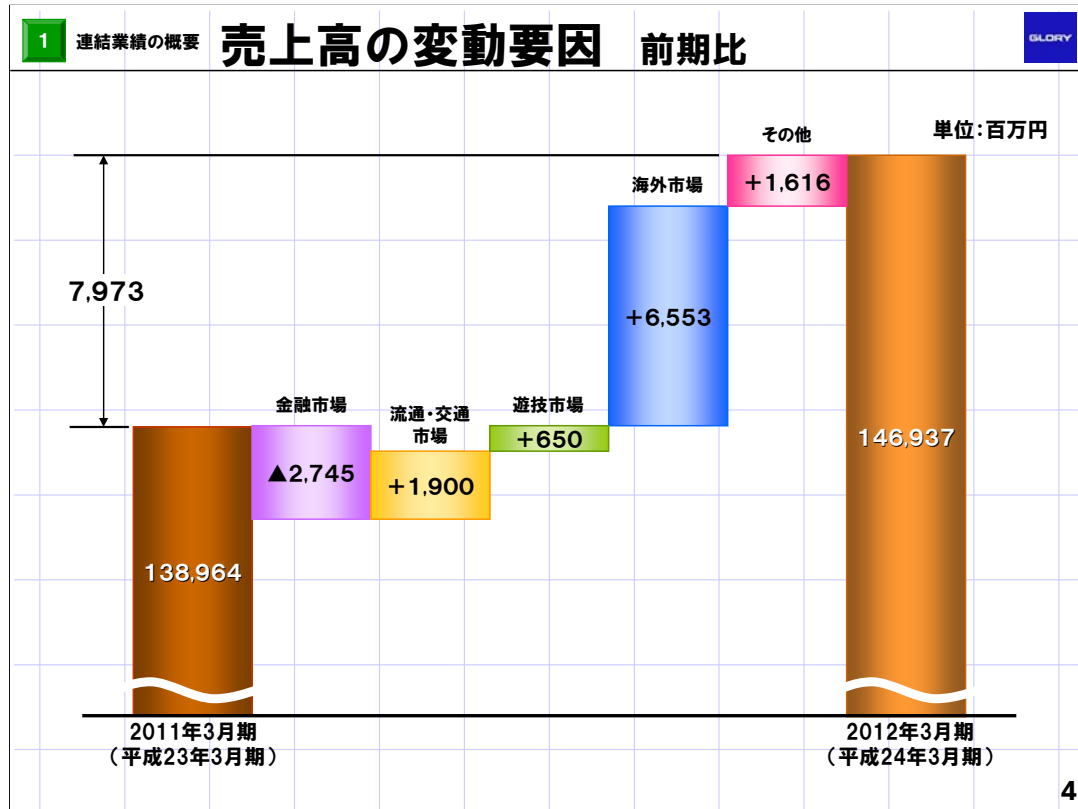
〔利益〕

営業利益は、前期に比べ9.2%増加。

- ・海外生産調達等のコストダウン
- ・子会社再編による経営の効率化
- ・遊技市場での破産更正債権の回収等

経常利益は、前期に比べ8.0%の増加。

当期純利益は、前期に比べ0.3%増加。



前期と当期の「セグメント別売上高の変動要因」について

当期は前期比79億7,300万円の増収。

[売上高が減少したセグメント]

金融市場・・・前期比マイナス27億4,500万円

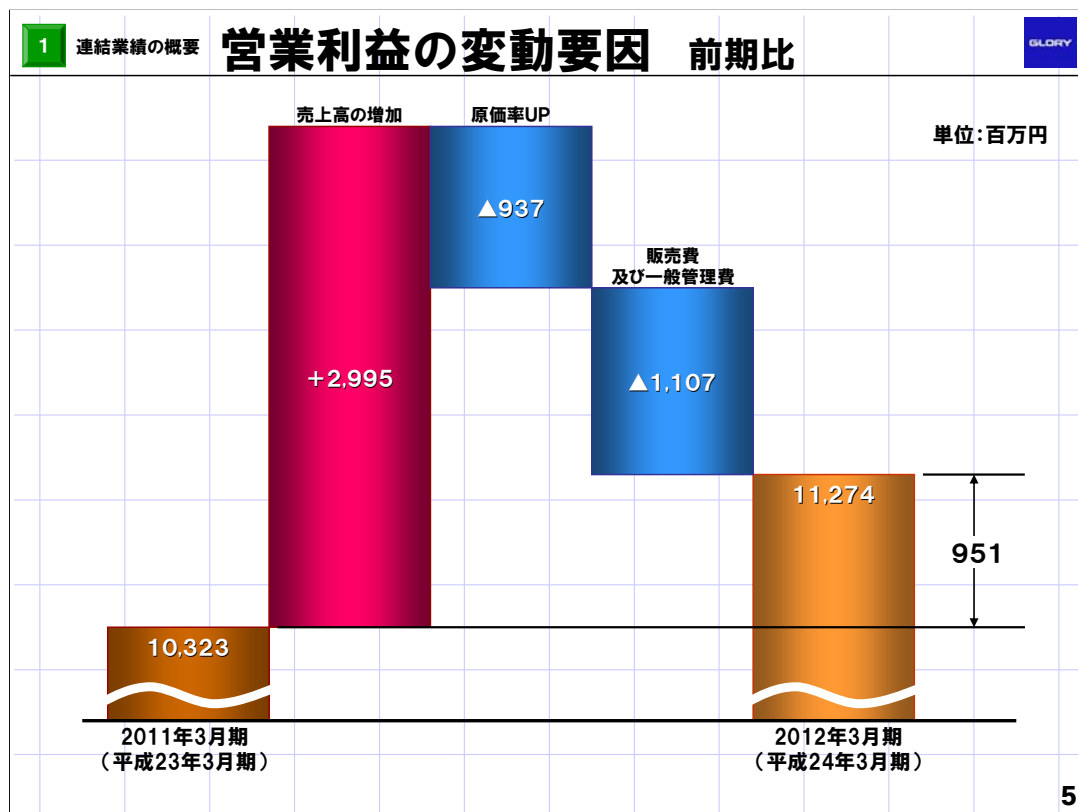
[売上高が増加したセグメント]

海外市場・・・前期比プラス65億5,300万円

流通・交通市場・・・前期比プラス19億円

遊技市場・・・前期比プラス6億5,000万円

その他・・・前期比プラス16億1,600万円



前期と当期の「営業利益の変動要因」について

当期は前期比9億5,100万円の増益。

〔主な増加要因〕

売上高増による増益効果が29億9,500万円。

〔主な減益要因〕

原価率アップの影響により9億3,700万円の減益。

販管費の増加により11億700万円の減益。

2012年3月期 **2** 連結業績の詳細

1)セグメント別売上高・営業利益(前期比)	…P. 7
2)四半期毎のセグメント別売上高	…P. 14
3)セグメント別売上高・営業利益(計画比)	…P. 15
4)設備投資他	…P. 16
5)損益計算書・包括利益計算書	…P. 17

「2012年3月期 連結業績の詳細」について

2

連結業績の詳細

セグメント別売上高・営業利益 前期比

GLORY

(単位:百万円)

セグメント	売上高			営業利益		
	2011年3月期	2012年3月期	前期比	2011年3月期	2012年3月期	前期比
 金融市場	46,936	44,191	▲2,745 (▲5.8%)	5,586	3,954	▲1,632 (▲29.2%)
 流通・交通 市場	26,666	28,566	+1,900 (+7.1%)	2,292	3,695	+1,403 (+61.2%)
 遊技市場	24,161	24,811	+650 (+2.7%)	824	2,039	+1,215 (+147.3%)
 海外市場	28,753	35,306	+6,553 (+22.8%)	1,349	1,837	+488 (+36.1%)
 その他	12,446	14,062	+1,616 (+13.0%)	269	▲253	▲522 (-)
合 計	138,964	146,937	+7,973 (+5.7%)	10,323	11,274	+951 (+9.2%)

7

7

「セグメント別の業績」について

[セグメント別売上高]

前期比で金融市場を除く4つのセグメントがプラス。

[セグメント別営業利益]

前期比プラス・・・流通・交通市場、遊技市場、海外市場。

前期比マイナス・・・金融市場、その他。

●主要製品の販売が低調

オープン出納システムの販売は、コンパクトタイプの大口需要の減少により低調。OEM商品は、ATM用硬貨入出金ユニットの販売は好調であったものの、窓口用入出金システムのユニットの販売は更新需要の延伸等により低調。

セグメントの概要

国内の金融機関、日本郵政、OEM先等への販売・保守

主要製品



オープン出納システム
WAVEシリーズ



窓口用入出金
システムのユニット
RBシリーズ



ATM用硬貨入出金
ユニット
RCNシリーズ

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比
売上高	46,936	44,191	▲2,745 (▲5.8%)
構成比率	33.8%	30.1%	▲3.7%
営業利益	5,586	3,954	▲1,632 (▲29.2%)
構成比率	54.1%	35.1%	▲19.0%
営業利益率	11.9%	8.9%	▲3.0%

「金融市場」について

主要製品であるオープン出納システムは、大口需要が減少し低調。
OEM商品については、ATM用硬貨入出金ユニットは好調でしたが、
窓口用入出金システムのユニットが更新需要の延伸等により低調。

〔売上高〕

前期比マイナス5.8%の441億9,100万円。

〔営業利益〕

前期比マイナス29.2%の39億5,400万円。

●レジつり銭機の販売が好調

OEM商品である店舗入出金機の販売は低調であったものの、主要製品であるレジつり銭機の販売は、設備投資意欲の回復や大口需要の獲得により好調であり、市場全体としては堅調に推移。

セグメントの概要

国内のスーパーマーケット、百貨店、警備輸送会社、鉄道会社等への販売・保守

主要製品



レジつり銭機
RT/RADシリーズ



小型入金機
DS-DSSシリーズ



現金入出金機
DSRシリーズ

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比
売上高	26,666	28,566	+1,900 (+7.1%)
構成比率	19.2%	19.4%	+0.2%
営業利益	2,292	3,695	+1,403 (+61.2%)
構成比率	22.2%	32.8%	+10.6%
営業利益率	8.6%	12.9%	+4.3%

「流通・交通市場」について

主要製品であるレジつり銭機は、設備投資意欲の回復や大口需要の獲得により好調。

OEM商品である店舗入出金機は低調であったものの、市場全体としては堅調。

〔売上高〕

前期比プラス7.1%の285億6,600万円。

〔営業利益〕

前期比プラス61.2%の36億9,500万円。

●メダル関連機器の販売が好調

主要製品であるカードシステム等の販売は、競合他社との競争激化の影響もあり低調であったものの、メダル関連機器の販売は、パチスロ人気の回復を受け好調であり、市場全体としては堅調に推移。

セグメントの概要

国内の遊技場(パチンコホール等)への販売・保守

主要製品

カードシステム



管理ターミナル

カードユニット

カード精算機

景品保管機
JKシリーズ

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比
売上高	24,161	24,811	+650 (+2.7%)
構成比率	17.4%	16.9%	▲0.5%
営業利益	824	2,039	+1,215 (+147.3%)
構成比率	8.0%	18.1%	+10.1%
営業利益率	3.4%	8.2%	+4.8%

「遊技市場」について

主要製品であるカードシステムは、競合他社との競争激化の影響もあり低調。
メダル関連機器は、パチスロ人気の回復を受け好調で、市場全体としては堅調。

〔売上高〕

前期比プラス2.7%の248億1,100万円。

〔営業利益〕

破産更正債権の回収等もあり

前期比プラス147.3%の20億3,900万円。

●各地域で販売が堅調

米州では、OEM商品である米国向けATM用紙幣・小切手入金ユニットの販売が好調に推移。
アジアでは、中国を中心に紙幣整理機の販売が順調。
欧州でも、イタリアの販売子会社Sitrade Italia S.p.A. の買収効果により順調に推移。

セグメントの概要

海外の金融機関、警備輸送会社、カジノ、
OEM先等への販売・保守

主要製品



紙幣整理機
UW・USFシリーズ



ATM用
紙幣入金ユニット
UDシリーズ



紙幣入出金機
RZシリーズ

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比
売上高	28,753	35,306	+6,553 (+22.8%)
構成比率	20.7%	24.0%	+3.3%
営業利益	1,349	1,837	+488 (+36.1%)
構成比率	13.1%	16.3%	+3.2%
営業利益率	4.7%	5.2%	+0.5%

「海外市場」について

米州では、OEM商品のATM用紙幣・小切手入金ユニットの販売が好調。
アジアでは、中国を中心に紙幣整理機の販売が順調。
欧州でも、イタリアの販売子会社(シトラード)の買収効果により順調。

〔売上高〕

前期比プラス22.8%の353億600万円。

〔営業利益〕

前期比プラス36.1%の18億3,700万円。

地域別売上高

(単位:百万円)

海外 地域別売上高	2011年3月期	2012年3月期	差異
米 州	5,988	8,493	+2,505 (+41.8%)
欧 州	14,710	16,335	+1,625 (+11.0%)
アジア	8,054	10,477	+2,423 (+30.1%)
内 中 国	3,960	5,523	+1,563 (+39.5%)
合 計	28,753	35,306	+6,553 (+22.8%)
内 OEM	9,306	10,309	+1,003 (+10.8%)

12

海外の「地域別売上高」について

[米州]

OEM商品のATM用紙幣・小切手入金ユニットの販売が業績を牽引し、前期比プラス41.8%の84億9,300万円。

[欧州]

OEM商品は低調であったものの、シトラード社の買収効果により、前期比プラス11.0%の163億3,500万円。

[アジア]

中国をはじめインド及びインドネシアにおける紙幣整理機の販売がコンスタントに拡大し、前期比プラス30.1%の104億7,700万円。

●主要製品の販売が好調

OEM商品である公営競馬場向け当選金払出ユニットの販売や診療費支払機、券売機の販売が順調に推移。

セグメントの概要

国内のたばこ販売店、たばこメーカー、病院、自治体、企業等への販売・保守

主要製品



診療費支払機
FHPシリーズ



印刷式同時券売機
VTSシリーズ



公営競馬場向け
当選金払出ユニット
RBKシリーズ

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比
売上高	12,446	14,062	+1,616 (+13.0%)
構成比率	9.0%	9.6%	+0.6%
営業利益	269	▲253	▲522 (▲194.1%)
構成比率	2.6%	0.0%	—
営業利益率	2.2%	0.0%	—

13

「その他」について

診療費支払機や券売機、公営競馬場向け当選金払出ユニットの販売が順調。

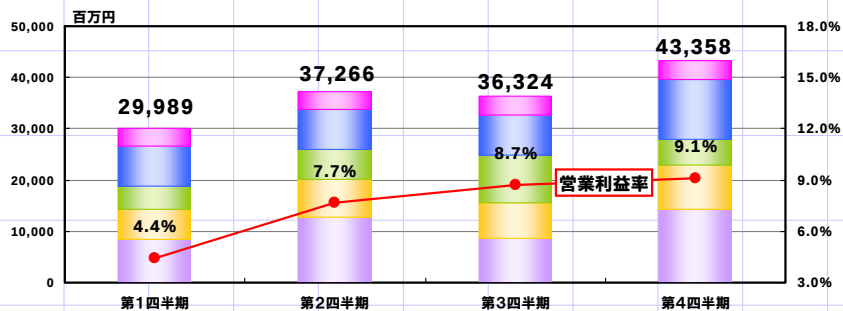
〔売上高〕

前期比プラス13.0%の140億6,200万円。

〔営業損益〕

2億5,300万円の営業損失。

四半期毎のセグメント別売上高



2012年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
金融市場	8,471(342)	12,715(1,479)	8,693(172)	14,312(1,943)	44,191(3,954)
流通・交通市場	5,836(736)	7,315(988)	6,837(769)	8,578(1,202)	28,566(3,695)
遊技市場	4,597(▲252)	5,856(381)	9,338(1,339)	5,020(571)	24,811(2,039)
海外市場	7,779(502)	7,844(234)	7,887(801)	11,796(300)	35,306(1,837)
その他	3,304(▲23)	3,535(▲235)	3,570(69)	3,653(▲64)	14,062(▲253)
合 計	29,989(1,306)	37,266(2,866)	36,324(3,148)	43,358(3,954)	146,937(11,274)

※右側の () は営業利益

「四半期毎のセグメント別売上高・営業利益」について

[4Q売上高]

ウエイト29.5%、前期比プラス9.8%の433億5,800万円。

[4Q営業利益率]

売上高の増加や遊技市場の破産更正債権の回収等により、
前期比プラス1.7%の9.1%。

2

連結業績の詳細

セグメント別売上高・営業利益 計画比

GLORY

(単位:百万円)

セグメント	2012年3月期					
	売上高			営業利益		
	計画	実績	差異	計画	実績	差異
 金融市場	43,500	44,191	+691 (+1.6%)	3,400	3,954	+554 (+16.3%)
 流通・交通市場	30,000	28,566	▲1,434 (▲4.8%)	4,000	3,695	▲305 (▲7.6%)
 遊技市場	24,000	24,811	+811 (+3.4%)	1,400	2,039	+639 (+45.6%)
 海外市場	34,500	35,306	+806 (+2.3%)	2,200	1,837	▲363 (▲16.5%)
 その他	13,000	14,062	+1,062 (+8.2%)	0	▲253	▲253 (-)
合 計	145,000	146,937	+1,937 (+1.3%)	11,000	11,274	+274 (+2.5%)

15

15

「セグメント別売上高、営業利益の計画との比較」について

〔売上高〕

流通・交通市場を除く全てのセグメントでプラスとなり、
計画比プラス1.3%。

〔営業利益〕

流通・交通市場、海外市場、その他が計画比マイナス。
金融市場、遊技市場はプラス。
全体では計画比2.5%のプラス。

設備投資他

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期比	過去5年間の推移										
設備投資額	6,413	6,708	+295 (+4.6%)	<table><tr><th>08/3</th><th>09/3</th><th>10/3</th><th>11/3</th><th>12/3</th></tr><tr><td>6,035</td><td>7,278</td><td>10,837</td><td>6,413</td><td>6,708</td></tr></table>	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	6,035	7,278	10,837	6,413	6,708
08/3	09/3	10/3	11/3	12/3										
6,035	7,278	10,837	6,413	6,708										
減価償却費	6,717	6,842	+125 (+1.9%)	<table><tr><th>08/3</th><th>09/3</th><th>10/3</th><th>11/3</th><th>12/3</th></tr><tr><td>6,570</td><td>7,821</td><td>8,144</td><td>6,717</td><td>6,842</td></tr></table>	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	6,570	7,821	8,144	6,717	6,842
08/3	09/3	10/3	11/3	12/3										
6,570	7,821	8,144	6,717	6,842										
研究開発投資額	8,998	9,934	+936 (+10.4%)	<table><tr><th>08/3</th><th>09/3</th><th>10/3</th><th>11/3</th><th>12/3</th></tr><tr><td>9,815</td><td>9,204</td><td>8,775</td><td>8,998</td><td>9,934</td></tr></table>	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	9,815	9,204	8,775	8,998	9,934
08/3	09/3	10/3	11/3	12/3										
9,815	9,204	8,775	8,998	9,934										

「設備投資など」について

設備投資額は67億800万円、
 減価償却費は68億4,200万円、
 研究開発投資額は、前期比プラス9億3,600万円の99億3,400万円。

損益計算書・包括利益計算書

(単位:百万円)

(百万円)	2011年3月期	百分比 (%)	2012年3月期	百分比 (%)	増 減	
売上高	138,964	100.0	146,937	100.0	+7,973	
売上原価	86,757	62.4	92,672	63.1	+5,915	①
販管費	41,883	30.1	42,990	29.3	+1,107	
営業利益	10,323	7.4	11,274	7.7	+951	
営業外収益	1,318	0.9	1,225	0.8	▲93	
営業外費用	613	0.4	592	0.4	▲21	
経常利益	11,028	7.9	11,908	8.1	+880	
特別利益	405	0.3	241	0.2	▲164	②
特別損失	1,306	1.4	507	0.3	▲779	
税金等調整前 当期純利益	10,127	7.3	11,642	7.9	+1,515	
法人税等合計	3,852	2.8	4,945	3.4	+1,093	③
当期純利益	6,229	4.5	6,246	4.3	+17	
少数株主損益調整前 当期純利益	6,274	4.5	6,696	4.6	+422	
その他包括利益合計	▲924	▲0.7	▲318	▲0.2	+606	
当期包括利益	5,350	3.8	6,378	4.3	+1,028	

①売上原価率：新製品開発費等の増加により0.7%アップ。

②特別損失：前期は退職給付費用(257百万円)、投資有価証券評価損(240百万円)等を計上

③法人税等：繰延税金資産の取崩し750百万円を計上

「連結損益計算書」について

営業利益は、原価率が前期比0.7%アップしたが、販管費率は、前期比0.8%減少したことから、前期比プラス9.2%の112億7,400万円。

営業外損益は、為替差損が7,800万円と前期から大きく減少し、経常利益は前期比プラス8.0%の119億800万円。

特別損益は、主だったものではなく、税前当期純利益は116億4,200万円。税制改正による繰延税金資産の取り崩しが7億5,000万円発生したものの、法人税等を差引いた当期純利益は前期比プラス0.3%の62億4,600万円。

包括利益は、少数株主損益調整前当期純利益66億9,600万円に、その他の包括利益マイナス3億1,800万円を合わせて、63億7,800万円。

3 2012年度 事業計画	海外市場 2014 GLORY
【海外事業 重点実施事項】地域別戦略の実践と収益モデルの確立	
米 州 ■ 窓口用紙幣入出金機の展開拡大 ■ 中南米での拡販	窓口用 紙幣入出金機 RBGシリーズ  
欧 州 ■ リテール事業の強化 ■ 中近東・アフリカ地域の営業強化	紙幣・硬貨つり銭機 CI-10シリーズ  
アジア ■ 中国の未開拓市場への営業強化 ■ 新興国での紙幣整理機の拡販	紙幣整理機 UFSシリーズ  
OEM ■ OEM先との関係強化	ATM用 紙幣・小切手入金ユニット SCDMシリーズ  

19

「海外市場」について

〔重点施策〕

地域別戦略の実践と収益モデルの確立

〔米州〕

新製品のRBGシリーズの販売拡大策などを展開。

〔欧州〕

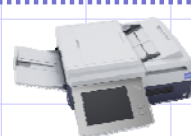
新製品のキャッシュインフィニティシステムでリテール事業を強化。

〔アジア〕

中国、及び新興国にマッチした新製品の営業強化を推進。

〔OEM〕

OEM先との情報交換を密にし、更なる拡販を促進。

3	2012年度 事業計画	金融市場	2014 GLORY
【国内事業 重点実施事項】 収益性向上と事業領域拡大			
現金分野		■ オープン出納システムの ターゲット市場の深掘り ■ ネットワーク化提案の強化	 WAVE C30シリーズ
非現金分野		■ 重要物管理機の市場拡大 ■ 鍵管理機の拡販	 セキュリティ・ストレージ・システム BKシリーズ
DP分野		■ イメージスキャナーの販売体制強化	 パソコン一体型スキャナー FUシリーズ
			20

国内事業について

〔重点施策〕

収益性向上と事業領域拡大

「金融市場」について

〔現金分野〕

主要製品のオープン出納システムの市場の深掘りと、営業店内のWAVEをはじめ、窓口やロビー向け製品など現金処理機のネットワーク化を推進する提案を強化。

〔非現金分野〕

重要物管理機や鍵管理機を販売拡大。

〔DP分野〕

新型イメージスキャナーの販売強化策を展開。

3

2012年度
事業計画

流通・交通市場



【国内事業 重点実施事項】 収益性向上と事業領域拡大

フロント機器市場

■ 未導入市場の開拓

・つり銭機市場での導入業種の拡大



レジつり銭機
RT/RAD200シリーズ

後方機器市場

■ スーパーマーケットでの拡販

・重点地域・ユーザーへの提案営業強化



小型入出金機
DSR200シリーズ

21

「流通・交通市場」について

【フロント機器市場】

つり銭機の導入業種拡大を目指し、飲食やドラッグストア、コンビニエンスストアでの実績拡大を図る。

【後方機器市場】

スーパーマーケットを対象に、当社の強みを活かした提案活動を展開し、販売拡大を図る。

3
2012年度
事業計画

遊技市場

2014
GLORY

【国内事業 重点実施事項】 収益性向上と事業領域拡大

■ 競争力強化によるシェア拡大

・新製品の市場投入
・大手ホール向け製品の開発

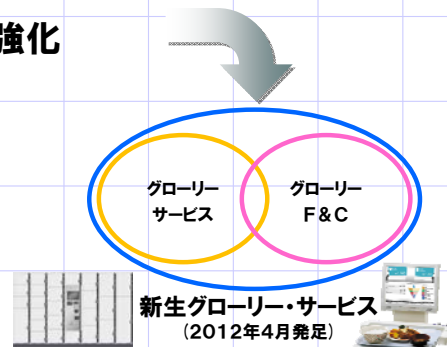
22

「遊技市場」について

シェア拡大策として、新製品の開発をはじめ、
大手ホールにターゲットを絞った製品開発を推進。

【国内事業 重点実施事項】収益性向上と事業領域拡大

- 病院市場への営業強化
- 社員食堂システムの拡販
 - ・関係会社2社の合併効果促進
- たばこメーカーとの協業強化
- 新事業の早期事業化
 - ・電子決済
 - ・生体認証
 - ・会話保護



23

「その他」について

「病院市場への営業強化」
「社員食堂システムの拡販」
「たばこメーカーとの協業強化」
「新事業の早期事業化」
に取り組む。

今年4月1日に関係会社2社を合併。

グローリーサービス(コインロッカーの販売・オペレーションを担当)

グローリーF&C(社員食堂システムや券売機の販売を担当)

今後、新生グローリーサービスとして、さらなる事業活動の強化と効率化を図る。

4	2013年3月期 業績予想	2013年3月期 業績予想		
売上高		海外事業の拡大、並びに国内市場の深掘りが進み、前期に比べ増収を予想。		
利益		売上高拡大とコストダウン施策の推進により、前期に比べ増益を予想。		
(百万円)		2012年3月期 (平成24年3月期)	2013年3月期 (平成25年3月期)	前期比
売上高		146,937	155,000	+5.5%
うち 保守売上高		33,944 (23.1%)	34,000 (21.9%)	+0.2%
営業利益		11,274 (7.7%)	12,000 (7.7%)	+6.4%
経常利益		11,908 (8.1%)	12,000 (7.7%)	+0.8%
当期純利益		6,246 (4.2%)	7,000 (4.5%)	+12.1%
※為替レート [ドル]75円 [ユーロ]105円				25

「2013年3月期 業績予想」について

売上高は前期比プラス5.5%の1,550億円、
 営業利益は前期比プラス6.4%の120億円、
 経常利益は前期比プラス0.8%の120億円、
 当期純利益は前期比プラス12.1%の70億円を予想。

※当予想には本年2月に決議した貨幣処理機の製造・販売会社である
 英国Talaris Topco Limitedの買収による業績への影響は加味していません。

4 2013年3月期 業績予想	セグメント別売上高・営業利益					2014 GLORY
(百万円)	2012年3月期 (平成24年3月期)		2013年3月期 予想 (平成25年3月期 予想)			
	売上高	営業利益	売上高	前期比	営業利益	前期比
金融市場	44,191	3,954	46,000	+4.1%	4,800	+21.4%
流通・交通市場	28,566	3,695	29,000	+1.5%	3,700	+0.1%
遊技市場	24,811	2,039	25,500	+2.8%	1,600	▲21.5%
海外市場	35,306	1,837	40,000	+13.3%	1,900	+3.4%
その他	14,062	▲253	14,500	+3.1%	0	—
合 計	146,937	11,274	155,000	+5.5%	12,000	+6.4%

26

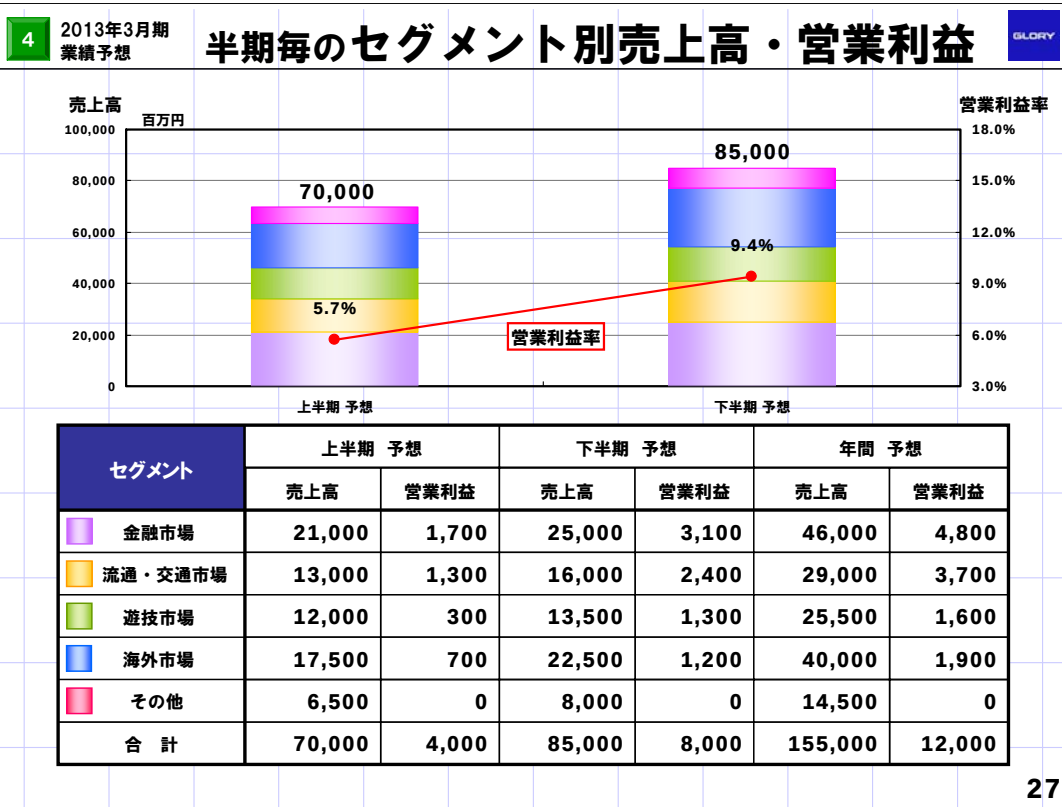
「セグメント別の売上高・営業利益」について

〔売上高〕

海外市場が前期比プラス13.3%の400億円と大きく伸び、それ以外のセグメントも前期と比べ増収を予想。

〔営業利益〕

遊技市場は、前期に特殊要因があったことから利益率は大きく低下。金融市場の利益率が改善し、それ以外のセグメントも前期とほぼ同等の利益率での着地を予想。



「半期毎のセグメント別売上高・営業利益」について

〔売上高〕

上期が45%、下期が55%の比率で推移することを予想。

〔営業利益〕

上期が33%、下期が67%の比率で推移することを予想。

5 その他の情報

1) 配当予想について …P. 29

「その他の情報」について

2013年3月期の配当について

利益配分に関する基本方針

将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。具体的には
「連結自己資本配当率1.8%を下限とし、連結配当性向25%以上を目標とした利益配分を行う」こととしております。

1株当たりの配当金	中間期末 予想	期末 予想	年間 予想
2013年3月期 (2012年5月10日公表)	21円00銭	21円00銭	42円00銭 (配当性向39.4%)

(ご参考)

2012年3月期 (2012年5月10日公表)	20円00銭	22円00銭	42円00銭 (配当性向44.2%)
----------------------------	--------	--------	-----------------------

※自己株式の取得につきましても、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために、適宜実施してまいりたいと考えております。

「配当予想」について

〔利益配分方針〕

より一層株主の皆様への還元を図るべく、
 配当の下限を連結自己資本配当率を前期から1.8%に引き上げ、
 連結配当性向につきましては引き続き25%以上を目標とした利益配分を
 実施。

今期の一株当たり配当金は、中間期末「21円」、期末「21円」、
 合わせて年間「42円」の予定。

〔自己株式の取得〕

資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために
 適宜実施。